

## 第1回登米圏域会議

【日時】令和4年6月14日（火）13時30分から15時30分まで

【場所】登米合同庁舎5階501会議室

### 【委員からの主な意見】

- ① コロナ禍で、ここ2年半、教育旅行の受け入れもなかったが、今年度は明るい見通しとなってきたところ。一方で受け入れる側の会員のモチベーションの低下や家庭の事情などで継続が困難となり、会員数も減りつつある。このままでは、受け入れ規模にも影響が出ることを懸念している。
- ② コロナ禍や3月16日の福島県沖地震で、東北風土マラソンが現地開催できない状況でも、新たな企画を立ち上げ、人との繋がりを模索した。デジタル化は進めるべきだが、後日の写真展示も好評で、アナログによる情報発信も広く知ってもらうためには必要と考える。
- ③ テレビの視聴者や新聞等の購読者も激減しているなかで、代わりに伸びているのは、インターネットを活用した情報媒体であり、今後大事になってくることから、DXを含めたインターネット活用に対し、資源や予算を割り振ることが必要である。
- ④ ホームページの内容が5～6年も更新されていないサイトも見受けられるが、イベントや行事が中止となっているなかでは、情報発信の停滞はマイナスイメージを発信しかねない。ハード面でのデジタル化を進めることも大事だが、発信する情報の更新も大切である。
- ⑤ 「はっと汁」は、小麦粉を練った同様のものが他の地域にもあるが、油麩井は登米市でしか食べられないものであることを推していくべきである。
- ⑥ コロナ禍が治まり、人の往来が回復してきたときに、登米市を訪れていただけるような魅力的なコンテンツが、もっと発信されることに期待したい。
- ⑦ ウィズコロナ・ポストコロナへの対応といった点では、現地でできることと、オンラインでできることをハイブリットで組み合わせる提案が必要である。
- ⑧ 伊豆沼・内沼は、ラムサール条約に指定されており、非常に良いコンテンツとなっているが、環境整備の面で見ると、栗原市側では遊歩道が整備されているが、登米市側では行われていない。伊豆沼・内沼の観光を盛り上げていくには施設整備も必要である。
- ⑨ 市民バスを観光客も利用できるようにするなど、登米市を周遊させる二次交通の仕組みづくりの検討をお願いしたい。
- ⑩ 日本国内では電力不足が起こっており、電力供給をどのようにするかが各方面で考えられている。環境省では、「脱炭素先行地域」として全国から100の自治体を選定し、電力消費に伴うCO2の排出をゼロにする取組を募っている。登米市もその事業に参画し「脱炭素化先行地域」の指定を受けた上で、畜産業や林業が盛んであることを利用した再生可能エネルギー関連事業所を増やし、その事業所を巡る「エネルギーツーリズム」という発想や、長沼周辺の草をきれいにし、管理道路を週末のみランニングやサイクリングができよう道路の通行制限をかけるなどして、安全で気持ちの良く運動できる環境を整え、人を呼び込むスポーツツーリズムを提案したい。
- ⑪ DXやデジタル化の話が出ているが、観光業としては実際に現地に足を運び、目で見て提案し、情報発信していくことが大切で、その辺に対し予算を投じていけば、効果があると考えられる。
- ⑫ コロナ禍で、多くの行事やイベントが中止となっているが、コロナが落ち着いたときに、再開できるか、会員の高齢化や会員の減少なども絡み、自然消滅していくのではないかと懸念してい

るところであり，県や市も注視して支援や援助をお願いしたい。

- ⑬ イベントが増えてくると，観光客向けのポスター掲示を依頼されることが多くなるが，施設によってはポスターが大きすぎると掲示場所の確保が難しい場面が多々出てくるので，検討をお願いする。
- ⑭ 登米市だけで誘客を考えるとかなり厳しい。南三陸町などの近隣の地域を訪れたついでに立ち寄るケースが多いことを考えると，他の地域との広域連携は必要である。